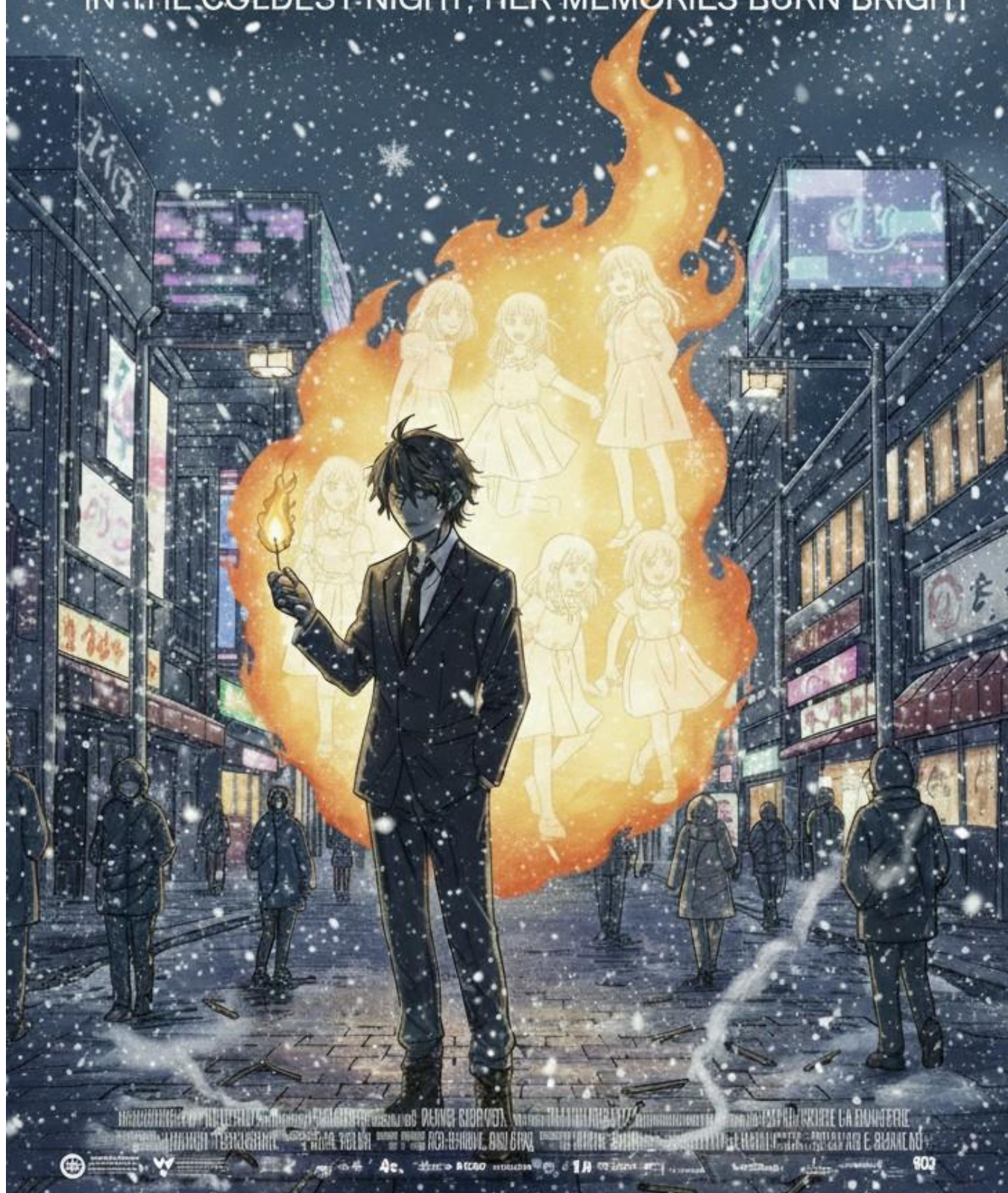


# THE MATCH OF THE GIRL SALE

IN THE COLDEST NIGHT, HER MEMORIES BURN BRIGHT



-登場人物-

真彦（26） 売春組織のポン引き。あだ名はマッチ。

少女 A、B、C、

熟女

客 A、B、C、D

後輩 売春組織のポン引き

オーナー 売春組織の元締め

**EXT. 路地裏 - 夕方**

大晦日。

雑居ビルの裏。

ネオンの準備灯がちらつく。

真彦（20代後半）、壁にもたれ、タバコを吸っている。

手にはマッチ箱が一つ。

後輩らしき男、通りかかる。

**後輩**

「マッチさん。お疲れ様です」

**真彦**

「おう」

後輩、去る。

ややあって、オーナー格の男が近づく。

**オーナー**

「真彦。今日もノルマ、頼んだぞ」

真彦はすぐに笑顔をつくる。

**真彦**

「了解です」

オーナーは満足げに去る。

真彦はマッチ箱をポケットにしまい、夜の街へ向かう。

**EXT. 繁華街 – 夜**

ネオン。人の波。

笑い声、呼び込み、音楽。

真彦、コートを着込んで、街角に立つ。

背筋を伸ばし、柔らかい笑み。

**真彦**

「お兄さん。若い女の子、いますよ」

何人も素通りする。

真彦、かじかんだ手を擦り合わせ、白い息を吐く。

### EXT. 繁華街・街角 – 夜

小雪が降り出している。

真彦、立っている。

中年の男（客 A）が立ちどまる。

疲れた顔。

真彦、相手の目を見て、マッチ箱をそっと差し出す。

### 真彦

「女の子、どうです？」

客 A、うなずき、金を出す。

真彦、マッチ箱を開け、マッチを見せる。

客 A、箱の中を覗き込み、マッチを一本選ぶ。

客 A、マッチを擦る。

暗転。

## イメージ映像 - 夜

炎。

揺らめく光の中に、少女 A の姿が浮かび上がる。

## INT. イメージ映像 - 部屋 - 夜

ストーブが赤く揺らめき、じんわり暖かい光が空気を染める。

少女 A は風呂上がりで、少し大きめの白 Y シャツ一枚を羽織り、膝を抱えるようにソファに座っている。

髪はまだ湿り、肩先や首筋に水滴が残っているのが視界の端で揺れる。

## 少女 A

あったかい……。

声に小さく息が混じる。

手元に置かれたマグカップを両手で包み込む。

一口すすると湯気が立ち上る。

少女 A

熱っ……でもおいしい。

少女 A、自然にこちらに体を寄せる。

微かに肩が触れ、指先が触れそうで触れない距離。

視界に笑顔が映り、ストーブの光が白シャツを柔らかく照らす。

沈黙。

少女 A、窓のほうを見る。

光が白シャツに落ちる。

視線がこちらに戻る。

少女 A

……そんな見る？

小さく笑う。

でも、目は逸らさない。

少女 A

……ねえ。今日、泊まってええ？

軽く手のひらがこちらに触れ、温もりが伝わる。

距離は自然に近く、視線も何度か交わる。

コーヒーの香り、ストーブの熱、微かな手の感触――

全部が重なり、部屋の空気を甘くする。

彼女は小さく息を吐き、髪のを指で直す。

ふわりと揺れる白シャツが、柔らかい光に照らされて動く。

肩越しの距離感だけで、冬の夜の暖かさと親密さを感じる。

暗転。

EXT. 繁華街・街角 - 夜

火が消える。

客 A は小さく息を吐き、マッチを地面に捨てる。

客 A

「……どうも」



客 A、去っていく。

真彦は微笑んだまま見送る。

**EXT. 繁華街・街角 - 夜**

若い男（客 B ）。

落ち着かず、声をひそめる。

**客 B**

「……処女なんですよ。ほんとに」

真彦、少し身を乗り出し、安心させるように笑う。

**真彦**

「ええ。初めての子です」

真彦、マッチ棒を差し出す。

若い男、それを受け取る。

マッチが擦れる音。

## イメージ映像 - 夜

炎。

揺らめく光の中に、少女 B の姿が浮かび上がる。

## INT. イメージ映像 - リビング - 夜

窓の外は暗く、室内のライトが柔らかに照らす。

キッチンからはオムライスの香りがふんわり漂い、湯気が立つ。

少女 B は薄手のカーディガンとホットパンツ姿。

髪を軽くまとめ、肩や脚のラインが自然に映る。

## 少女 B

できたよ。熱いから気をつけて。

少女 B、オムライスの乗った皿を差し出す。

視線を合わせ、ちょっと茶目っ気たっぷりに笑う。

少女 B

ほら、匂いだけで我慢できる？

少女 B、少し顔を寄せ、くすっと笑う。

少女 B、スプーンを手にする。

少女 B

じゃあ、あーんして。

少女 B、スプーンを差し出す。

視界の先、少女 B の微笑みが映し出される。

少女 B

おいしい？

湯気と香り、笑顔、柔らかい布越しの温もり。

それだけで、二人だけの時間がふんわり包まれる。

暗転。

**EXT. 繁華街・街角 - 夜**

マッチの火が消える。

客 B は一瞬だけ満足そうに笑い、すぐに視線を落とす。

マッチを捨て、早足で去る。

真彦は変わらぬ笑顔。

**EXT. 繁華街・街角 - 夜**

酔った男（客 C）、立ち止まる。

**客 C**

「……大丈夫？」

真彦、一瞬だけ相手を値踏みし、すぐに笑顔に戻る。

**真彦**

「いけますよー」

マッチ箱を開き、差し出す。

客 C、マッチ棒を一本選ぶ。

客 C、じっと見つめる。

**客 C**

「チェンジ、できる？」

真彦、笑顔でマッチ棒を回収する。

**真彦**

「どうぞ」

客 C、マッチ箱を覗き込む。

少考し、マッチ棒を取り出す。

マッチが擦れる音。

**イメージ映像 - 夜**

炎。

揺らめく光の中に、少女 C の姿が浮かび上がる。

#### EXT. イメージ映像 - 広場 - 夜

広場に立つ大きなクリスマスツリーが、赤・緑・金色のライトで煌めき、周囲の雪や地面に光を反射している。

少女 C、暖かそうなニットコートとマフラー、ブーツ姿。

髪を軽くまとめ、肩や首元に冷たい夜風が当たるたび、マフラーが揺れる。

#### 少女 C

きれいやな……ツリー。

小さく笑いながらこちらを見る。

距離は自然に近く、肩が軽く触れる。

#### 少女 C

手、寒いから繋がへん？

差し出された手に自然に触れる。

指先が絡み、温もりがじんわり伝わる。

ツリーの光が二人の影を地面に落とし、柔かい光に満たされる。

少女 C

写真、撮るか？ ツリーも入れて。

少し体を寄せ、肩や腕が触れる。

光の揺れとマフラー越しの温もり、視線の交わり――

それだけで夜の空気が特別に甘くなる。

少女 C

……大好きだよ。

手を握ったまま、光と影、温もりと香りが重なる。

二人だけの時間がゆっくり流れる。

暗転。

EXT. 繁華街・街角 - 夜

火が消える。

客 C、マッチを放り捨てる。

客 C、満足げに笑いながら去る。

#### EXT. 繁華街・街角 - 夜

年配の男（客 D）、静かに立ち止まる。

真彦、少しだけ声を落とす。

真彦

「……落ち着いた子、いますよ」

客 D はうなずく。

#### イメージ映像 - 夜

炎。

揺らめく光の中に、熟女の姿が浮かび上がる。

#### INT. イメージ映像 - 旅館 - 夜



熟女、畳の上に座っている。

落ち着いたワンピースにカーディガン、髪には少し白い毛が混ざる。

視界の下端に、客 D の手が映る。

そっと肩に置き、軽く揉む。

**熟女**

あ……そこ、気持ちええ。

肩や背中の布がわずかに沈み、微かに揺れる。

客 D、手を動かし続ける。

**熟女**

ん……ありがとう、気持ちいいわ。

肩の力を抜き、体を少しこちらに預ける仕草。

湯気の立つ湯のみや障子から差し込む光が、肩や腕、布の柔らかい動きを照らす。

## 熟女

あんたといると落ち着くわ……。

視線が自然に合う。

互いに見つめ合い、言葉はなくても距離と温もりが伝わる。

微かな笑みが視界に映り、夕暮れの柔らかい光の中、二人だけの静かな時間が

じんわり流れる。

暗転。

## EXT. 繁華街・街角 – 夜

火が消える。

年配の男はマッチを丁寧に置くように捨て、深く息を吐いて去る。

真彦は軽く会釈をする。

## EXT. 繁華街・街角 – 深夜

人影が消える。

ネオンだけが残る。

真彦は初めて笑顔を消す。

無表情。

冷えた目。

真彦、タバコを取り出し、咥える。

マッチ箱を開け、余ったマッチ棒を擦る。

タバコの火が燃えあがる。

イメージ映像 - 夜

炎。

INT. イメージ映像 - 高級車・車内 - 夜

革張りの高級車の内装。

ドアが静かに閉まり、

外の喧騒は遠ざかる。

車は静かに走り出す。

真彦は無言で、窓の外を見ている。

## INT.イメージ映像 - 高層ビル・ラウンジ - 夜

天井まで届く大きな窓。

高所から見下ろす夜景。

街は細かな光の粒になり、人の気配は消えている。

足元の車も、先ほどまで立っていた街角も、もう見えない。

## INT. イメージ映像 - 高層ビル・ラウンジ - 続き

静かなテーブル。

磨かれたグラス。

高価なウィスキーが注がれる。

氷が触れ合う音が、やけに大きく響く。

真彦、一口含む。

喉を通る熱。

マッチの火とは比べものにならない温度。

豪華な料理が並ぶ。

真彦、無言で食べはじめる。

真彦、食べながら、街を見下ろしている。

支配し、上から眺める側にいるという、静かな満足。

#### **EXT. 繁華街・街角 – 深夜**

タバコの火が消える。

真彦は煙を吐き、煙を見上げる。

表情は動かない。

足元には捨てられたマッチ。

真彦はそれを踏み潰し、闇へ歩き去る。

暗転。

**END**